

サトイモ疫病の発生にご注意ください！

令和6年6月
さといも振興研究会

今年は高温多雨が予測され、重要病害の「サトイモ疫病」が発生しやすい気象条件になることが懸念されます。いるま野管内では、令和2年に広範囲で発生し、大きな問題となりました。

本病は感染力が強く、被害も大きいため、発病前からの予防的薬剤散布が被害軽減につながります。

全国有数の産地を守るため、裏面の防除資料を参考に、地域全体で防除・管理を行いましょう。

本病の特徴

- ・ 病原菌：カビの一種で、サトイモ属にのみ感染する。
- ・ 被害：病斑の形状は円形。次第に広がり、病徴が進むと穴が開く場合がある。葉の表面だけでなく、裏面にも病斑ができる。葉柄には黒いしみ状の病斑ができる。
- ・ 伝染方法：風雨により急激にまん延する。
- ・ 発生しやすい気象条件：
6月以降、日平均気温が20～25℃で、日降水量20mm以上の多雨や数日間降雨が続く場合。特に、1株あたりの親芋・子芋を合わせた葉枚数が15枚以上になると、発病の危険が高まる。



【お問い合わせ先】 JAいるま野〇〇センター TEL:〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

川越農林振興センター 農業支援部 TEL:049-242-1804

サトイモ疫病の防除について

- 予防散布に努めてください。薬液には、展着剤（ドライバーまたはスカッシュ）を加用しましょう。
- 日中の高温時は薬害が発生しやすいため、散布を避けてください。
- 表の時期は目安です。実際の発生状況に応じて農薬散布を行ってください。
- 表の「※」で示した剤は、共通の有効成分「マンゼブ」(使用2回まで)が含まれます。**使用回数に注意ください。**

散布時期の目安	薬剤名	希釈倍数	散布液量	使用方法	使用時期	本剤使用回数	
6～7月 (予防散布) 15葉目安	ペンコゼブ水和剤※ (ジマンダイセン水和剤)	500倍	100～300 L/10a	散布	収穫7日前まで	2回以内	
	ピシロックフロアブル	1,000倍	100～300 L/10a		収穫前日まで	3回以内	
	ランマンフロアブル	2,000倍	100～300 L/10 a		収穫前日まで	2回以内	
発病確認後	ダイナモ顆粒水和剤	2,000倍	100～300 L/10 a	散布	収穫21日前 まで	3回以内	
		40倍	3.2 L/10 a				無人航空機 による散布
		20倍	1.6 L/10 a				
2回目以降 ローテーション ン散布	カンパネラ水和剤※ (ベネセット水和剤)	1,000倍	100～300 L/10 a	散布	収穫7日前まで	2回以内	
		2000倍	100～300 L/10 a				
	アミスター20フロアブル	18倍	1.6L/10 a	無人航空機 による散布	収穫14日前 まで	3回以内	
	ダイナモ顆粒水和剤	上記同様					
	アミスター20フロアブル	上記同様					
9～10月	ジーファイン水和剤	1,000倍	150～500 L/10 a	散布	収穫前日まで	-	
	ICボルドー66D	100倍	100～300 L/10 a				-

- ・ダイナモ顆粒水和剤とランマンフロアブルの連用は避けましょう（耐性菌発生リスクが高いため）。
- ・農薬の使用にあたっては、必ずラベルに記載された使用方法に従い、飛散防止に努め、使用記録簿をつけましょう。
- ・掲載した農薬は、2024年5月15日現在の登録情報に基づいています。